

2022年3月及び2021年度のアルミニウム圧延品の生産・出荷動向について

2022年4月28日



1. 2022年3月のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

- ◆ 概況：
- ・板： 生産・出荷ともにプラス。内需は「民生用」「自動車」以外の分野がプラス。半導体製造装置関連は二桁増が継続している。
 - ・押出： 生産・出荷ともにマイナス。建設分野は前年並みだったが、「自動車」のマイナスが影響した。
 - ・はく： 生産・出荷ともにマイナス。昨年3月の出荷量が高水準だったこともあり、17ヶ月ぶりのマイナスとなった。

・板類（主な分野のコメント） * 数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 缶材 35,626トﾝ (0.5%) : 糖質カットなどの機能性表示食品や、リニューアル商品などアルコール飲料が好調だったことによりプラスとなった。
- (2) 自動車 17,401トﾝ (▲ 12.4%) : 半導体不足などにより国内生産が減少、昨年が高水準だったこともあり二桁減となった。
(国内自動車生産台数の前年同月比推移: 11月▲3.2%→12月▲5.5%→1月▲20.4%→2月▲1.6%)

・押出類（主な分野のコメント） * 数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 建設 37,385トﾝ (0.5%) : 住宅着工戸数の伸びを受けて、プラスとなった。
2022年2月の住宅着工戸数: 64,614戸 (前年同月比+6.3%)
- (2) 自動車 10,817トﾝ (▲ 16.7%) : 板同様、国内自動車生産台数の減少によりマイナスが続いている。

・はく（主な分野のコメント） * 数字は出荷量、カッコ内は前年同月比

- (1) 電気機械器具 6,281トﾝ (▲ 3.2%) : コンデンサはプラスが継続したが、リチウムイオン電池は前年が高水準だったこともあり、マイナスに転じた。
(コンデンサー向け: +5.9%、リチウムイオン電池向け: ▲4.5%)
- (2) 食料品 2,313トﾝ (4.3%) : まん延防止等重点措置が全面的に解除され、イベントや飲食店での制限が緩和されたことなどにより、
外食向けやコンビニ向け等、食料品全体で前年比プラスとなった。

◎2022年3月実績 生産および出荷(前年同月比、▲はマイナス)

	生産 (トン)	前年同月比 (%)	コメント		出荷 (トン)	前年同月比 (%)	コメント
板類	111,646	5.5	5ヶ月連続でプラス	板類	109,239	1.5	3ヶ月連続でプラス
押出類	62,261	▲ 2.8	3ヶ月ぶりにマイナス	押出類	63,055	▲ 2.7	5ヶ月ぶりにマイナス
板押計	173,907	2.4	5ヶ月連続でプラス	板押計	172,294	▲ 0.1	5ヶ月ぶりにマイナス
はく	10,930	▲ 1.8	17ヶ月ぶりにマイナス	はく	11,067	▲ 1.2	17ヶ月ぶりにマイナス

2. 2021年度（4～3月期）のアルミニウム圧延品の生産・出荷概況

（前年度比（%）、▲はマイナス）

	生産（トン）	前年度比（%）	コメント		出荷（トン）	前年度比（%）	コメント
板類	1,181,453	10.7	4年ぶりにプラス	板類	1,175,053	10.7	5年ぶりにプラス
押出類	712,706	7.4	4年ぶりにプラス	押出類	722,413	7.3	4年ぶりにプラス
板押計	1,894,159	9.4	4年ぶりにプラス	板押計	1,897,466	9.4	4年ぶりにプラス
はく	126,548	15.5	2年連続でプラス	はく	125,435	13.4	2年連続でプラス

◆ 出荷概況

2021年度の圧延品生産出荷は、生産、出荷ともに4年ぶりにプラスとなった（生産：+9.4%、出荷：+9.4%）。

板は、「缶材」家飲み需要によりプラス。「自動車」はアルミパネルの採用車種が増加、「金属製品」ははく地が好調だった他、印刷版もコロナ感染拡大によるチラシ需要激減から若干回復した。半導体製造装置向けの厚板を含む「その他」も世界的な需要増により大幅に増加した。

押出は最大用途である「建設」がコロナ禍から緩やかに回復、住宅着工の増加に伴いプラスとなった。「自動車」はアウトドアや移動手段としての二輪車需要が拡大。

はくはITリモートなどデジタル化の進展、5Gの普及、EV車の世界的な生産増などによりコンデンサ、リチウムイオン電池向けともに好調。一方「食料品向け」はコロナ禍による需要減が継続、インスタント向けの一部では素材転換もあった。

◆ 主な分野のコメント： *数字は出荷量、カッコ内は前年同期比

板類

(1) 缶材 400,956トン（ 2.4%）：家飲み需要により、ビール類、RTDなどのアルコール飲料が堅調に推移。
清涼飲料は、テレワークの普及、外出自粛などにより販売減少。

(2) 自動車 190,916トン（ 11.3%）：半導体不足やコロナ感染の再拡大による部品調達遅延などにより、自動車減産の影響はあったものの
軽量化ニーズによるアルミの新規採用車種が増加、二桁増となった。

押出類

(1) 建設 431,324トン（ 5.2%）：住宅着工戸数の増加、コロナ禍からの緩やかな回復などによりプラスとなった。

(2) 自動車 124,371トン（ 1.8%）：アウトドア・レジャー需要や、密を避けるための移動手段として需要が急増し、「二輪車向け」が大幅に増加。

はく

(1) 電機機械器具 73,075トン（ 25.9%）：コンデンサは自動車の電動化、5G、データセンターなどの通信、蓄電等多くの分野で需要が旺盛、
リチウムイオン電池はEV車の世界的な生産増による車載用が増加した他、ウイルス対策としての
非接触型端末の普及により民生用も好調であった。

(2) 食料品 24,240トン（ ▲ 4.2%）：緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が繰り返される中、外出機会が減少、外食・旅行関連等の
需要減が継続した。一部のレトルト食品では、電子レンジ対応パウチへの置き換わりもあった。